

百歳ももとせの気色けしきの

庭の落葉哉 芭蕉

北村 豊

休日の診療所で落ち葉を片づけたのち、待合室の中でも特等席に座って患者さんの目線で庭を眺めてみた。

座ると眼前に広がる木々の紅葉や落葉に加えて、地下水の清流が流れ込みイワナも棲息する池のある庭を、一人でこころ静かに眺める至福の時に浸ってみた。

あと何年この景色を私は眺められるのだろ

うか…、そして一回しか受診されない患者さんもおられる口腔外科の特殊性から、そのよ

うな方も含めた多くの患者さんたちは、診療前後の待合室でどのような思いを抱きながらこの「移りゆく季節」を映す待合室の前に広がる庭を眺めておられるのだろ

うか、と私を巡らしてみた。私事、70年の時を既に越え、師走生まれの

私は6回目の年男に新年にはなるのであるが、この診療所の景色も私と同じ…とはおこがましくて言えないが、風景も人と同じで、経年とともに奥深さと落ち着きのある景觀に変化してきたなあ、とつくづく感じるのは幸いにも私の独りよがりでもないようである。長年にわたり通院していただいている患者さんからも同様の

お褒めの言葉を聞くとき、それに呼応して謙遜した言葉を自ら発しながらも、内心では満悦する自分がそこにはいる。

思うに幼少の頃から

高校卒業までを過ごした古都奈良では、植物に造詣の深かった母の影響も受けて、昆虫や自然がいつも身近に、いや共にあってそれらとの関わりのおかげで物は無くともこころ豊かに健やかに成長して来られた気がしている。

”自然との関わり”、”自然の恩恵”や、ときにはその猛威などと共に生きていく宿命にある私たち人間であるが、人間を頂点にしたピラミッドをこころの中に形成されてしまっ

ては、その時点で自然との共存はなくなってしまうのではないだろ

うか？

勤労感謝の日に、この歳になりながらも健康で働ける喜びを噛みしめつつ、重複するが待合室の患者さん用の座りごちがよい和にも合うソファに深く腰掛けて秋映えの庭を眺めながら、静かに、しかも自由に思いを馳せてみた小春日和の初冬の一日であった。

静心しずこころで思索に耽るときも、「時間泥棒」の棲む現代社会ではきつとモモが力強い味方になってくれることでしょう。

（上高井郡小布施町・信州口腔外科インプラントセンター所長）